

平成22年度 入札監視委員会議事概要

北海道防衛局・帯広防衛支局

開催日及び場所	平成22年12月10日(金) 北海道防衛局4F会議室		
委員	阿座上委員長(地域経済研究所理事長) 神谷委員(北海道教育委員会委員長) 菊地委員(大学教授) 齋藤委員(弁護士) 杉下委員(公認会計士・税理士)		
審議対象期間	平成22年 8月 1日 ~ 平成22年10月31日		
審議対象件数	42件		
1 入札状況について(入札参加資格の設定、指名及び落札者決定の経緯等について)			
抽出件数	総件数 9件	(審議概要)	
建設工事	一般競争(政府調達協定対象)	0件	・局担当者から契約状況、指名停止、低入札状況の説明 ・対象件数より抽出した9件の概要について局担当者が説明、委員による審議
	一般競争(政府調達協定対象外)	5件	
	公募型指名競争	0件	
	指名競争	0件	
	企画競争	0件	
	随意契約	0件	
建設コンサルタント業務等	4件		
	意見・質問	回答	
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等	【指名停止状況説明】 ・特になし。 【低入札状況説明】 ・帯広(22)建物解体工事は、落札率が31.79%であるが、翌日の入札(釧路(22)宿舎解体工事)で、この落札業者が辞退しているが、辞退理由は何か。 ・土質調査、解体工事については、低入札が多分にあるようだが、予定価格設定について、何か考慮することはあるか。	・積算が間に合わなかったとのことであった。 ・解体工事の予定価格は、業者から見積りを取って、査定し実情にあった価格での積算に心掛けているが、業者もコンクリート造の解体が得意とか、現場が近いとか、種々条件により違ってくるので、低落札の状況から一律に予定価格を低減すれば良いというものではないと考えている。	

	<p>・発注者側が発注時期等工夫すればどうか。</p> <p>【抽出案件】 ○建設工事等（北海道局） 一般競争入札方式（政府調達協定対象外）</p> <p>a [札幌外(22)テレビ電波障害対策等工事]</p> <p>・1社応札の考えられる理由は何か。</p> <p>・1社応札でも落札率が82.3%で、かなり競争原理は働いていると思う。</p> <p>b [旭川(22)庁舎新設機械追加工事]</p> <p>・1社応札であるが、追加工事の内容を説明されたい。</p> <p>・本体工事入札の業者数と落札率はいくらか。</p> <p>・追加工事は、通常、随意契約ではないのか。</p>	<p>・土質調査に関しては、市場単価で積算しているが、仕事が空いていれば、極端に札を低く入れて来る場合もある。 また、同じ会社が毎回低いとも限らず、タイミング、時期、場所等いろんなものが複合されていると思われる。</p> <p>・発注時期が集中する時期とかならない時期とかあるが、できるだけバランス、平準化を心がけている。競争が激化する時期に予定価格を下げるという訳にはいかず、なかなか難しい。</p> <p>・応札者を増やそうと10地区をまとめたが、結果的に1社であった。住民説明とか場所が点在していることも要因と考える。</p> <p>・平成21年度に発注した3階建て庁舎の設備工事である。3階部分の換気設備工事の一部が予算上の都合で積み残され、今回、追加工事として発注した。</p> <p>・本体工事は11社で落札率は89%である。</p> <p>・従来はこのような追加工事は随意契約で実施していたが、現在、防衛省では競争入札で実施している。 また、[旭川(22)庁舎新設電気追加工事]では、4社が応札している。 落札率が電気工事で90%、機械工事は95%となっている。他の追加工事では、複数社が入札に参加してくる場合も多くあり、本件工事がたまたま結果的に1社だったということと考えている。</p>
--	---	--

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>・随意契約ではなく一般競争により実施されることから、落札率が95%というのは、ほどほどの率であると思われるが、本体工事と違う業者の場合、施工的に問題はないのか。</p> <p>c [丘珠(22)整備場新設等建築その他追加工事]</p> <p>・1社応札であるが、本体工事と同じ業者か。 また、工事内容も似たようなものか。</p> <p>○建設コンサルタント業務等(北海道局) 公募・簡略審査型競争入札</p> <p>d [早来(22)燃料施設整備地質調査]</p> <p>・予定価格については、業者からの見積り方式か、また、低入札の理由は何か。</p> <p>・経済全体であるが、業界大手も、価格を安くする研究が始まって競争が激化してきている。 新規参入のための実績作りで、価格を下げるというのは、あまりいいことではない。</p> <p>e [千歳外(22)資器材庫新設等建築設計]</p> <p>・1社応札で落札率が98.87%であるが、1社応札の考えられる理由は何か。</p>	<p>・工事内容によっては責任分担の範囲について、調整が必要とする場合もあるが、監督官等ともよく調整し遂行している。</p> <p>・同じ業者である。 本体工事の内装工事の一部が積み残されたので、今回追加工事で発注した。</p> <p>・国土交通省が定める「設計業務等標準積算基準書及び設計業務等標準積算基準書(参考資料)」を適用して積算している。 低入札価格調査を実施したところ、落札業者は北海道で実績を作りたいとのことであった。</p> <p>・低入札となると、質の低下等懸念されるが、監督回数を増やしたり、課長を検査官として対応する等、質の低下につながらないよう対策を講じている。 また、低落札をした業者の管理者に対し、手持ち業務の制限等をかけている。</p> <p>・今年、初めて設計業務に総合評価方式を導入したため、そのことによる戸惑いと、千歳外の地区が遠いということから応募しなかったものと考えられる。</p>

	<p>・総合評価方式でなければ、1社のみでなく、落札率も下がったのではないと思われるが、準備期間として、公告から入札までの期間はどのくらいか。</p> <p>・総合評価方式というのは、本来、一般競争入札の補完ということで、価格競争だけでなく、適正な価格で、いい物を作ってほしいという観点なので、多少は機能していると考えます。</p> <p>f [近文台(22)燃料施設整備地質調査]</p> <p>・これも低入札であるが、こういう状態が一般化してきていることから、価格破壊とか、条件がいいという問題ではなく、精密機器等の発達で、オートメーション化されて、グローバル化してきている状況もある。 今後、発注者側も工夫というか検討を始められてはどうか。</p> <p>g [早来(22)燃料施設整備地質調査(その2)]</p> <p>・特になし。</p> <p>○建設工事等(帯広支局)一般競争入札方式(政府調達協定対象外)</p> <p>a [帯広(22)庁舎新設建築追加工事]</p> <p>・この追加工事は5社応札で、落札率が69.35%と低いですが、追加工事の内容は難しい内容ではないのか。</p> <p>・本体工事の落札業者も今回と同じか。</p>	<p>・公告から入札までの期間は約1ヶ月半、申込み締め切りまでは約20日間である。</p> <p>・今年度、全局的に試行することになり、北海道局も初めて導入したが、今後、増やして行きたいと考えている。</p> <p>・確かに測量調査に関しては、GPS等機器の発達もあるが、土質調査に関しては、技術というか経験を積んだものでないと判断できないところがあり、会社によっては、昔の経験者を現場に出して、経費を削減するところもある。 いずれにしても、こういう現象を装備施設本部でも検討を始めている状況であると聞いている。</p> <p>・躯体の内装工事等で、難しい工事ではない。</p> <p>・同じである。</p>
--	---	--

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>b [帯広(22)建物解体工事]</p> <p>・先ほどの低入札事案で審議したが、これも見積りか。解体工事については、専門業者も積算システムとか持っているものと思われる。</p>	<p>・帯広市内の業者数社から見積りを取り、積算している。</p>
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p>	<p>[意見の具申等]</p> <p>・特になし。</p>	<p>[回答]</p>

2 談合疑義案件(内訳明細書の点検結果疑義)の処理状況について			
	談合疑義件数	－件	(審議概要) ・該当案件なし
工事	談合情報	－件	
	点検結果疑義	－件	
業務	談合情報	－件	
	点検結果疑義	－件	
委員会による意見の具申又は勧告の内容		[意見の具申等] ・特になし	[回答]
3 入札結果の事後的統計について			
審議概要		・順位傾向、落札率、応札率、低落札について説明	
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等	意見・質問		回 答
	[順位傾向] ・特になし。 [落札率・応札率] ・特になし。 [低落札] ・特になし。		